

令和5年度

久美浜学園保幼小中一貫教育

高龍小学校

保育教育内容
充実の8年目

かぶと山小学校

久美浜小学校

久美浜中学校

久美浜保育所

かぶと山
こども園

こうりゅう虹こども園

久美浜学園は、久美浜の
7つの、学校、園、所の総称

久美浜学園保幼小中一貫教育

保育、幼児教育、小中学校の義務教育を一体とし、統一的で一貫性のある指導・カリキュラムのもと、園所、小中学校が目標や指導方法を共有し緊密に連携、協働して進める教育の方法

「目指す子ども像」

久美浜の子どもをどのように育てるか、どんな力を身につけさせるかを定めています。学校、園、所はもとより、家庭や地域でもこうあってほしいという子ども像です。子育てや教育の方向性を示し、義務教育の中で実現したい「子ども像」です。

京丹後市の目指す子ども像

- 将来に夢と希望をもって生き生きと学ぶことのできる子ども○
- ・基礎・基本を確実に身につけ、質の高い学力をもった子ども
 - ・規範意識をもち、豊かな人間関係を築く子ども
 - ・自分自身を高め続ける、たくましい心と体に満ちた子ども



久美浜学園の目指す子ども像

- (知) 意欲的に、質の高い学力を身につけようとする子
- (徳) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子
- (体) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子

第2期京都府教育振興プラン(目指す人間像)※令和3年度策定

○めまぐるしく変化していく社会において、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、よりよい社会と幸福な人生を創り出せる人

久美浜学園保幼小中一貫教育のホームページをぜひご覧ください。➡

<http://www.Kyoto-be.ne.jp/kumihama-jhs/cms/>



久美浜学園保幼小中一貫教育は8年目。スタート当時、園所の5歳だった子どもたちが中学校へ入学してきました。保幼小や小中のつながりづくり、学力充実や不登校解消の取組などを重点化し進めてきた一貫教育も10年近くなりました。これからは、一貫教育の成果を検証しつつ、更なる保育・教育内容の充実がより重要になってきます。目指す子ども像、学園教育目標、取組の柱などは変わりませんが、それぞれの取組の内容充実を図っていきます。

今年度の入学式等は、3年ぶりに大勢の方が会場に集まりました。また、新入生はマスクなしで式に臨んだ学校もありました。中学校は、4月に東京への修学旅行を実施しました。コロナ禍であっても工夫しながら進めてきた保育・教育活動は、今年度、様々な制限も緩和され、充実して行われるだろうと思われます。活動の価値を検証・精選し、今後は真に必要なものが取り組まれていくこととなります。学力充実と不登校の解消、教育研究の活性化が今年度の重要な取組の柱です。

学園教育目標

ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心を持ち、根気強く努力する子どもの育成

重点目標

意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成
～子どもの実態や系統性を踏まえた指導～

指導の重点【学力向上】

- 1 基礎・基本の徹底
- 2 主体的に学ぶ力の伸長(授業づくり)
- 3 家庭学習時間の確保

共通指導事項(学力向上)

- 学習課題・家庭学習をしっかりと子どもを育てる。
- 相手の顔を見て話を聞く子どもを育てる。
- 時間・時刻を守る子どもを育てる。

共通指導事項(生徒指導)

- あいさつ・返事をする子どもを育てる。
- 勤労生産・奉仕活動を協力してする子どもを育てる。

取組の柱1

幼児児童生徒の成長発達に学園の全教職員で責任を持つ。全教職員がチームとして協働できる意識を醸成

○「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を推進

学園テーマとして「主体的に学ぶ力の伸長」を設定し、ICTを活用しながら、幼児児童生徒が自ら考えを深める授業を創る。

「目指す子ども像」から始まる様々な目標と「共通指導事項」が、久美浜学園の教育の方向性です。どんな子どもを育てるのか、何を大事にして日々の具体的な活動をするのかなどの指針になります。これを学園で統一して目指し進めます。



「学力向上」が、5年目から10年目までの重点課題です。1時間ごとの授業の充実、具体的な学力定着の方策など、教職員が一丸となって取り組んでいきます。



「共通指導事項」は、学園で指導する重要な項目です。より具体的な項目を園所学校の教職員が指導を徹底することが重要となります。



「主体的・対話的で深い学び」を目指し、子どもが関わり合って学習を進め、**主体的に学ぶ力**を伸ばします。1人1台のタブレット、電子黒板など**ICT**を活用します。

丹後や久美浜を学ぶ「**丹後学**」を進め、**ふるさとを愛する心**を育てます。

教員が授業を参観し指導法を学び合います。
(対話と理解)

取組の柱2

規範意識の醸成を基盤とした落ち着いた学校・園所づくり、授業づくり

- 生徒指導の4つの視点(自己決定、自己存在感、共感的人間関係、安心・安全な風土の醸成)を活かした「わかる授業」と「学級経営・特別活動」の充実により規範意識を醸成し、学ぶ意欲を育成
- 学校・学年単位の授業研究推進と「主体的に学びに向かう力」の育成する授業づくりの取組推進
- 学習の基礎・基本の徹底と基盤となる力をつけきるとともに当たり前のできる雰囲気づくり



聞く、話す、時間を守るなど、**学習規律**や**学習に向かう力**を身に付けさせます。

チーム活動、異年齢活動などをおして、困難なことがあっても力を合わせ協力することを学ばせます。

「**当たり前のできる**」「**関わり合って学ぶ**」授業を進めます。

取組の柱1は学習、授業、職員の協働にかかわる内容です。中学校は一つですが、園所、小学校は3つに分かれています。連携と協働が極めて大事となります。学力は、各種テストで少しずつ上がってきていて成果が出ています。取組の柱2は、生活です。子どもたち自身が、集団としてまとまり、落ち着いた雰囲気を保ち、意欲に満ちた集団活動を創り上げることを目指しています。毎年、質の高い活動が生れています。また、年齢が上がるにつれ、しっかりした態度で授業や集会・式に臨む姿が見られます。

取組の柱3

子どもの交流行事、教員の指導交流の推進による行動連携

- 共に学ぶ意識を育て、子ども同士を結び付ける交流行事・交流授業
- 豊かな教科指導を目指す教員の指導交流



5歳児交流会でかぶと山登山

同学年で交流する**小小連携学習**

合唱祭全員合唱

『ボレー・スマッシュ』

部活動紹介動画

6年生の**部活動体験、合唱祭取組参観**

児童会生徒会の**あいさつ運動**や**SDGsの取組**

体験授業・体験入学

養護部SNS出前授業

中学生と園児との交流

小学校での**専科授業**

winter concert

園所職場体験

昨年度、6年生の部活動体験と合唱祭参観は実施できず、動画視聴となりました。児童会・生徒会主催のあいさつ運動やSDGsの取組は、合同会議を重ねながら充実した活動となっています。同学年で交流する5歳児交流会、小小連携学習は実施できました。教員の指導交流として専科授業も理科、外国語で中学校の教員が小学校で授業をしています。また、養護部が園所で出前授業としてSNS学習をしました。

取組の柱4

保護者、地域とともに「久美浜を支える人づくり」の視点に立った取組
OPTA・保護者会、学園学校運営協議会、地域学校協働本部との連携
○家庭学習時間の確保に向けた連携

久美浜学園PTA・保護者会

会長会議、家庭教育委員会に、園所の保護者会からも参加し、学園として統一してできる取組を考えていきます。

- 一斉あいさつ運動(6/1、10/5、1/11)
- 家庭学習がんばり週間(学園の取組と連動して実施)
- 規範意識を醸成するためのSNSに関する教育講演会の実施

久美浜学園学校運営協議会

子どもたちを心豊かに育て、「久美浜を支える人」を育てる教育環境づくりを進めるため、地域、家庭、学校が、目標や課題を共有し、連携・協働していきます。子どもにかかわる様々な活動をされている団体や機関の代表者の方に、年間3回の会議(5/18、10/31、2/21)に出席していただきます。学園の基本方針の承認、学園の取組や活動評価の報告、学園の教育について意見聴取、学園の取組参観などを進めます。学園の頼もしい「応援団」です。



SNS教育講演会



学園あいさつ運動



見守り隊の活動～毎日たくさんの方が、通学路に出ておられます。学校での対面式もします。



地域遊び教室
～少しずつ再開されています。



地域で活躍～バイパス開通式



学校支援ボランティア



保幼小中一貫教育に係る今後の課題

- ◆ 全国的な不登校・不適応児童生徒の増加への対応
 - ・子育てに十分関われない家庭への支援、特性をもつ子どもへのきめの細かい指導・支援(医療連携・通級指導教室の充実等)
 - ・コミュニケーション能力を育むための、ふれあい・関わりを大切にしたい学校や地域での諸活動
- ◆ アフターコロナの教育活動の在り方の検討、教師の人材確保・育成を視野に入れた「働き方改革」の推進
 - ・教育活動のスリム化・ねらいの焦点化
 - ・地域の見守り活動のさらなる活性化
 - ・中学校の部活動の地域移行に向けた基盤づくり
- ◆ 保幼小中一貫教育を果立っていく児童生徒のキャリア形成と進路保障
 - ・ふるさとを愛する心を育てる取組のさらなる活性化
 - ・義務教育を修了した子どもを応援する地域ネットワークづくり
 - ・地元高等学校と繋がった新たな一貫教育や地域活動の活性化
 - ・ひきこもり対策、障がい者福祉のさらなる充実と連携強化
- ◆ ICT活用と取組の工夫による教職員及び園児児童生徒の交流を活性化(より高い協働意識と共に学ぶ意識の醸成)
 - ・学校共同事務室の運用による業務の効率化
 - ・ICT(オンライン)を活用した部会や学年会の定例化(特に、小学校、園所)
 - ・学校間でのオンライン授業、校種間交流など、子ども同士のオンラインでの交流
- ◆ 市保幼小中一貫教育授業研究会をとおして「主体的に学ぶ力の育成」に基づく授業研究の推進
 - ・教育課程会議を中心とした研究活動の活性化の取組推進
 - ・資質能力ルーブリックの各期の実践の焦点化
 - ・ICT(オンライン)を活用した公開授業、ICT(オンライン)事前研、事後研の開催等、学園での授業研究体制づくりの推進
 - ・学園での優れた実践を広める広報活動の活性化
- ◆ 「開かれた教育課程」を目指した地域に溶け込む学校づくり
 - ・地域教材、地域学習を教育課程に取り込むことを積極的に推進
 - ・学校運営協議会等と連携した地域で活躍する子どもづくり